



長野県鉱工業指数 平成31年1月分(速報)をお知らせします

●概況

平成31年1月の長野県鉱工業指数は、前月比(季節調整済指数)で、生産は5.3%減と6か月ぶりの低下、出荷は8.2%減と2か月ぶりの低下、在庫は1.9%増と2か月ぶりの上昇となりました。

前年同月比(原指数)では、生産は0.3%減と30か月ぶりの低下、出荷は2.9%減と4か月ぶりの低下、在庫は3.1%増と2か月ぶりの上昇となりました。

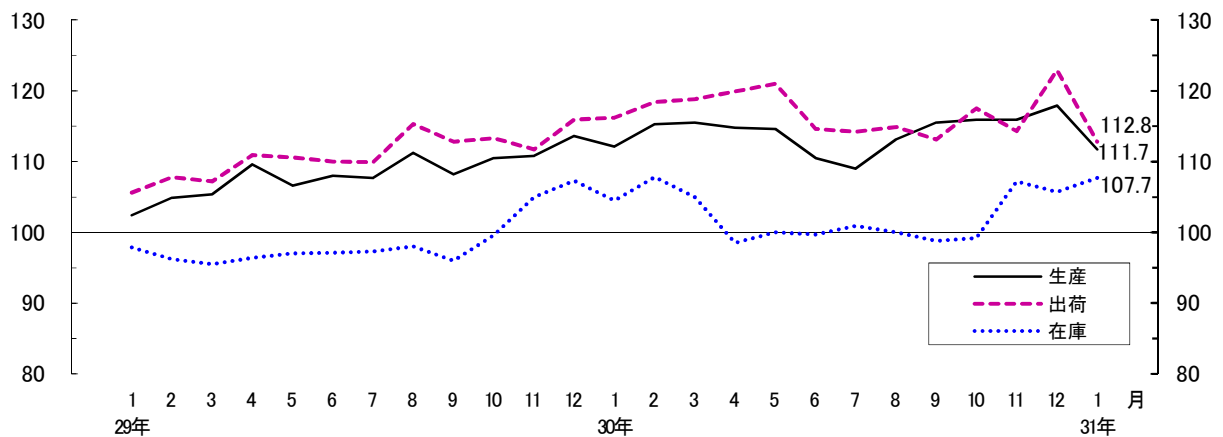
※基準年を平成22年から平成27年に変更し、それに伴い平成25年1月まで遡って指数を再計算しました。基準改定の概要は巻末に掲載のとおりです。

平成27年(2015年)=100

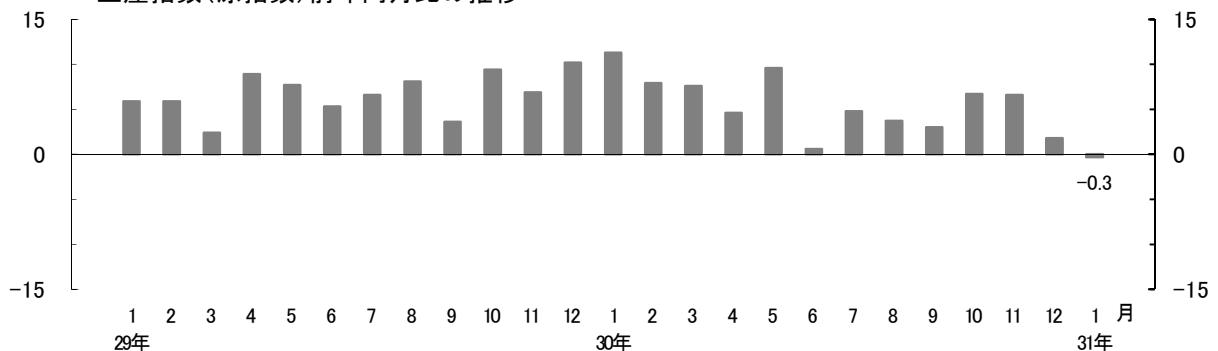
項目	季節調整済指数	前月比(%)	原指数	前年同月比(%)
生産	111.7 (117.9)	△ 5.3 (1.7)	103.1 (114.1)	△ 0.3 (1.8)
出荷	112.8 (122.9)	△ 8.2 (7.5)	100.9 (121.6)	△ 2.9 (4.8)
在庫	107.7 (105.7)	1.9 (△ 1.4)	111.1 (106.9)	3.1 (△ 1.5)

※()内の数値は、平成30年12月分確報値

季節調整済指数の推移

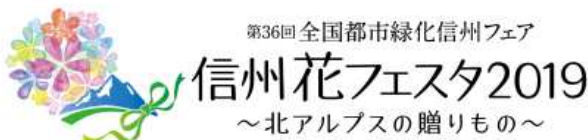


生産指数(原指数)前年同月比の推移



※1) 季節調整済指数とは、原指数を季節調整(毎年季節的に繰り返される変動を取り除くこと)した指数のことで、原指数 ÷ 季節指数により算出します。
 ※2) 原指数とは、生産等の基準数量(基準となる年の月平均の数量)に対する当月の数量の割合のことで、当月の数量 ÷ 基準数量により算出します。

国内最大級の花と緑のイベント 信州初開催



第36回全国都市緑化信州フェア

信州花フェスタ2019

～北アルプスの贈りもの～

2019年4月25日(木) - 6月16日(日)

メイン会場 長野県松本平広域公園

サブ会場 国営アルプスあづみの公園(堀金・穂高地区/大町・松川地区)

長野県烏川溪谷緑地

企画振興部 情報政策課統計室 統計第一係
 (室長) 堀内 明美 (担当) 番場 一吉
 電話 : 026-235-7070 (直通)
 026-232-0111 (代表) 内線5118
 F A X : 026-235-0517
 E-mail tokei@pref.nagano.lg.jp

◎「長野県鉱工業指数」はインターネットでも提供しています
 ⇒ <https://www.pref.nagano.lg.jp/tokei/tyousa/iip.html>

1 生産・出荷・在庫の業種別動向

		主な業種	季節調整済指数	前月比 (%)	主な品目
17業種	上昇 8	化学工業	88.6	45.7	医薬品
		輸送機械工業	123.4	5.8	自動車部品
		その他工業	114.9	4.9	その他製品工業
	低下 9	汎用・生産用・業務用機械工業	111.4	△ 16.6	
		電子部品・デバイス工業	105.1	△ 9.3	電子回路
		電気機械工業	115.3	△ 10.5	回転電気機械

17業種	上昇 6	化学工業	110.2	30.9	医薬品
		情報通信機械工業	149.8	4.3	
		輸送機械工業	115.9	4.4	自動車部品
	低下 11	汎用・生産用・業務用機械工業	108.6	△ 24.6	
		電子部品・デバイス工業	105.9	△ 8.7	電子回路
		食料品工業	115.6	△ 6.8	飲料

16業種	上昇 11	電気機械工業	165.2	12.6	
		情報通信機械工業	191.5	10.6	
		汎用・生産用・業務用機械工業	99.1	3.8	
	低下 5	その他工業	104.5	△ 11.6	その他製品工業
		鉄鋼業	142.0	△ 15.8	鋳鍛造品
		食料品工業	89.6	△ 1.8	味そ・しょう油

※「主な業種」については、寄与度(全体に与える影響)の大きいものを掲載してあります。

※「主な品目」については、対象事業所が少数の場合は掲載していません。

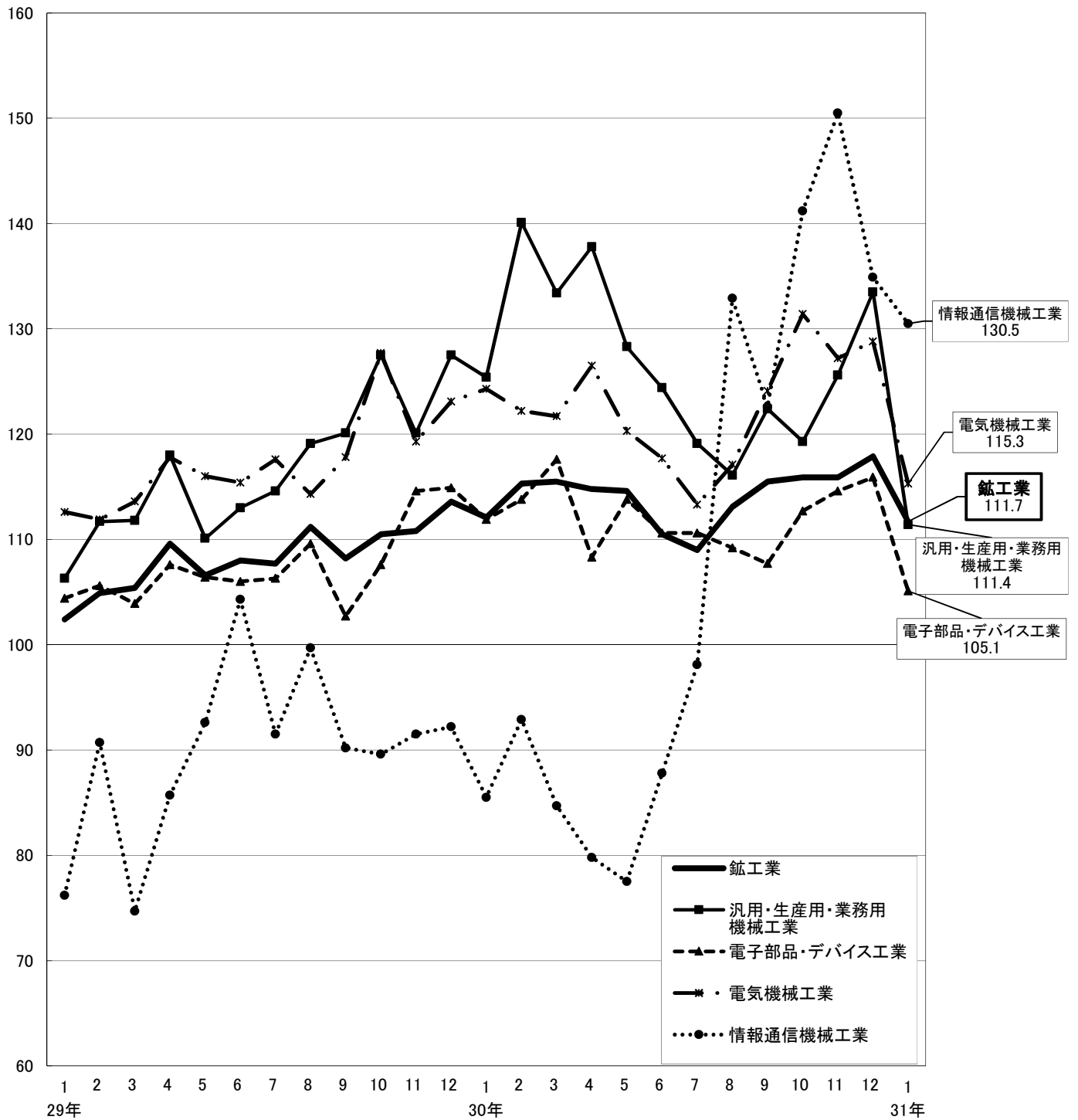
※前月比が横ばいの業種は業種数に含みません。

※「汎用・生産用・業務用機械工業」に係る、「主な品目」の()内は次の区分によります。

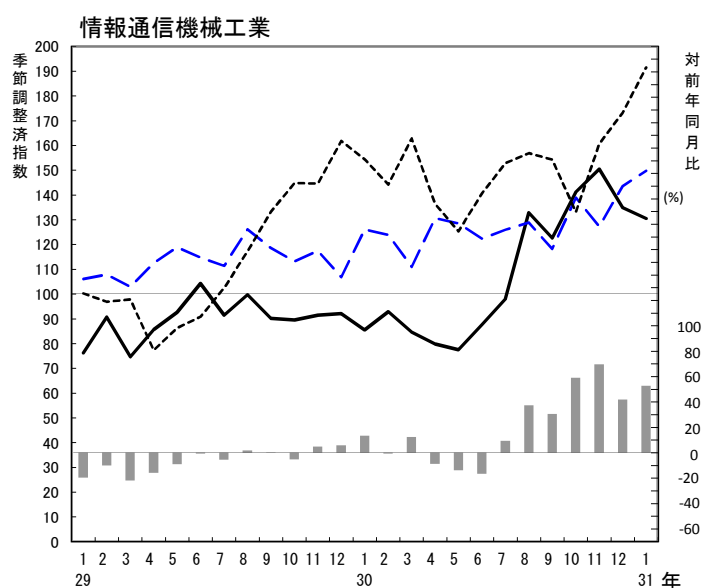
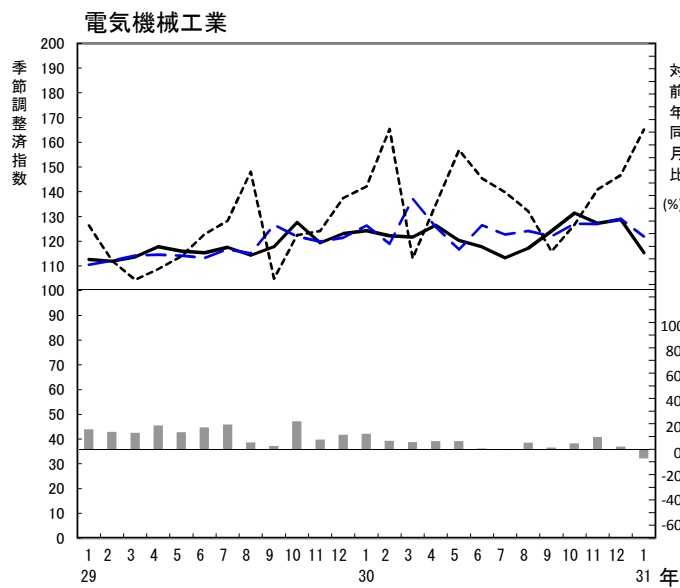
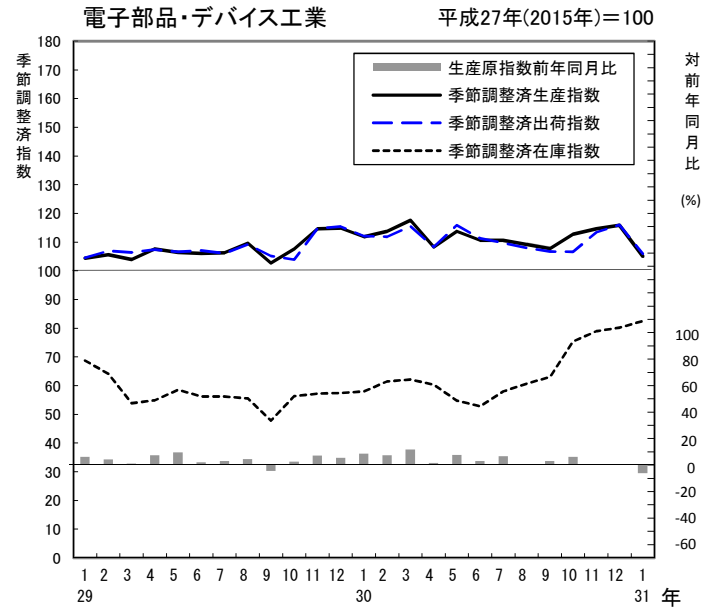
(汎): 汎用機械 (生): 生産用機械 (業): 業務用機械

2 主な業種の生産指数(季節調整済指数)の推移

平成27年(2015年)=100



3 主な業種の生産指数等の推移



4 財別の動き(季節調整済指数)

平成27年(2015年)=100

項目	最終需要財		投資財		消費財		生産財	
	指数	前月比(%)	指数	前月比(%)	指数	前月比(%)	指数	前月比(%)
生産	110.5 (118.3)	△ 6.6 (4.0)	110.0 (128.9)	△ 14.7 (6.1)	111.3 (105.6)	5.4 (0.3)	112.2 (118.3)	△ 5.2 (0.1)
出荷	113.2 (129.1)	△ 12.3 (14.6)	108.8 (136.6)	△ 20.4 (17.0)	118.7 (119.1)	△ 0.3 (9.5)	112.1 (117.7)	△ 4.8 (2.7)
在庫	116.2 (109.7)	5.9 (△ 6.6)	142.6 (134.8)	5.8 (△ 6.1)	91.4 (87.8)	4.1 (△ 5.7)	98.5 (100.2)	△ 1.7 (4.7)

※()内の数値は、平成30年12月分確報値

長野県鋳工業指数基準改定の概要

平成 27 年（2015 年）基準

1. 改定の趣旨

「長野県鋳工業指数」は、鋳工業の生産、出荷及び在庫数量を指数化することにより、その動向を総合的かつ迅速に把握することを目的として、毎月作成し公表しています。

鋳工業指数については、「指数の基準時に関する統計基準」（平成 22 年 3 月統計基準設定）において「指数の基準時は、5 年毎に更新することとし、西暦年数の末尾が 0 または 5 である年とする」とされていることから、現行の基準時である平成 22 年（2010 年）から 5 年後の平成 27 年（2015 年）を新たな基準年とし、ウェイトや採用品目等の見直しを行いました。

2. 改定する指数系列

- (1) 生産指数（付加価値額ウェイト）
- (2) 出荷指数
- (3) 在庫指数

3. 改定の主な内容

(1) 基準時及びウェイトの更新

指数の基準時を平成 22 年（2010 年）から平成 27 年（2015 年）に更新しました。

指数値は平成 27 年の平均を 100.0 とした比率で示しており、ウェイトも平成 27 年の産業構造によって更新しています。

(2) 採用業種の一部変更

「はん用・生産用・業務用機械工業」を「汎用・生産用・業務用機械工業」に改めました。

(3) 採用品目の見直し

最近の生産活動の動向を反映するため、「経済産業省生産動態統計調査」等を参考に採用品目の見直しを行い、より代表性の高い品目を選定しました。

また、用途、単価の変動を考慮し、統合・分割や、採用単位の見直し等を行いました。

採用品目の改廃状況

項目	平成22年 基準	平成27年 基準	差	差の内訳		
				新規	廃止	統合
生産指数	178	147	△ 31	3	△ 30	△ 4
出荷指数	177	147	△ 30	3	△ 29	△ 4
在庫指数	91	70	△ 21	5	△ 26	0

(4) ウェイトの見直し

業種別のウェイトは、経済センサスー活動調査を基礎資料とし、指数の業種分類概念に適合するよう調整した上で算定しました。

また、品目別のウェイトは、経済センサスー活動調査のほか経済産業省生産動態統計調査や各種業界統計などにより単価・金額等を推計し、業種別のウェイトを採用品目の金額構成比により按分しました。

ウェイトが変化した主な業種は、以下のとおりです。

ウェイト変化状況（生産・出荷・在庫）

指数の種類	主なウェイト上昇業種	主なウェイト低下業種
生産指数 (付加価値ウェイト)	汎用・生産用・業務用機械工業 (1731.8 → 2413.1)	電子部品・デバイス工業 (1622.4 → 1476.8)
	電気機械工業 (690.6 → 808.6)	輸送機械工業 (867.1 → 656.6)
	食料品工業 (1268.4 → 1342.5)	情報通信機械工業 (1171.7 → 802.5)
出荷指数	汎用・生産用・業務用機械工業 (1774.2 → 2308.6)	輸送機械工業 (863.1 → 729.9)
	食料品工業 (1325.4 → 1408.4)	情報通信機械工業 (1099.4 → 862.3)
	その他工業 (477.5 → 552.9)	電子部品・デバイス工業 (1785.2 → 1506.2)
在庫指数	汎用・生産用・業務用機械工業 (2290.9 → 2461.9)	繊維工業 (95.3 → 56.3)
	プラスチック製品工業 (385.2 → 442.3)	窯業・土石製品工業 (476.8 → 408.7)
	その他工業 (602.3 → 657.1)	情報通信機械工業 (1131.5 → 751.9)

4. 季節調整法

季節調整法は、米国センサス局のX-12-ARIMAを用いて、ARIMAモデルやオプションを見直しました。

ARIMAモデルを(210)(011)から(110)(011)に変更しました。

なお、異常値処理は行っていません。

5. 新基準への切り替え及び旧指数との接続

平成27年基準指数は、平成31年1月分速報から公表し、過去系列は、平成25年1月分まで遡及します。

また、平成25年1月時点で旧指数との接続を行い、長期時系列を整備します。

平成22年基準指数との接続係数の算出方法は次のとおりです。

$$\text{接続係数} = \frac{\text{平成27年基準の平成25年1～3月平均季節調整済指数}}{\text{平成22年基準の平成25年1～3月平均季節調整済指数}}$$

※ 詳細は長野県公式ホームページ (<https://www.pref.nagano.lg.jp/tokei/tyousa/iip.html>) をご覧ください。